

上代・中古資料における非制限的連体修飾節の分布

筑波大学 橋本修

1 日本語の非制限的連体修飾節とその周辺

1-1 日本語非制限的連体修飾節の概観

非制限的連体修飾節の規定

三宅 1995、神尾 1983

被修飾名詞の指示範囲を狭めない（限定しない）

統語的位置は制限的連体修飾節よりも高い

用例の区別の確定という面ではグレーゾーンもあるか。

ex. 金水 1986 の存在化のタイプ、ソムキャット 2000 の眼前描写のタイプ等

i [さっきまでいた]男は、いつの間にかいなくなっていた。

ii [隣の席で本を読んでいる]老人に声をかけてみた。

iii [幸いにも居合わせてくれていた]医者に助けてもらった。

ほぼ確実に非制限的と言えるのは、固有名詞、代名詞、指示連体詞つき名詞句等の定名詞句を、actual な意味で修飾している場合。

iv [教室を出た]後藤先生は、玄関口から空を見上げた。

v [三度も離婚している]私に、アドバイスのできるわけがない。

vi [伊藤先生が書いた]その書類を、9時までに届けたいといけない。

用語ほかについての注記

* 「非制限的」と「非限定的」を区別しない（原則「非制限的」を用いる）

* 「連体修飾」と「名詞修飾」、「被修飾名詞」と「主名詞」は同義（原則「連体修飾」、「被修飾名詞」を用いる）

* いわゆる外の関係の連体修飾節にも非制限的節はあるが本発表では扱わない。

1-2 非制限的連体修飾節の分類他

益岡 1995 の非制限的連体節の分類（まとめかたは孫 2007 を参考にしている。分類記号等は本稿筆者）

I 「情報付加するもの」

I A 主節の事態に対する情報付加

I A ア 「対比・逆接」

I A イ 「継起」

I A ウ 「原因・理由」

I A エ 「付帯状況」

I B 「主名詞に対する情報付加」

II 「情報付加ならざるもの」

該当用例（益岡 1995 所収、原典あり。区切り記号等は本稿筆者はつけた箇所もあり）

I A ア 「対比・逆接」

(01) [いつもは孫に甘い]祖父が、その時ばかりは、きびしい声で、きっぱりと言った。

I A イ 「継起」

(02) [控え室に戻った]私は、9 分間、時間を過ぎたことを、係の人にわびた。

I A ウ 「原因・理由」

(03) [最後のバスに乗り遅れた]僕はしようがなく橋寺をうしろにして一人でてくてく歩き出しました。

I A エ 「付帯状況」

(04) [血の気が引いていく思いで出場者表を見上げていた]勇の肩を、金村が強く叩いた。

I B 「主名詞に対する情報付加」

(05) [コカイン密輸事件で逮捕・送検された]角川書店社長の角川春樹容疑者は、父親の源義氏ともども異色の俳人として名が通っている。

II 「情報付加ならざるもの（「述定的装定」）」

(06)a. 修一は[動揺する]自分を感じながら言った。

(06)b. [いかに仮説を立てて論を進めることに味をしめた]アインシュタインとはいえ、あくまでも科学者である。

2 現代日本語以外の非制限的連体修飾節

2-1 英語・中国語との対照についての先行研究

非制限的連体修飾節のうち、益岡 1995 の挙げる全てのタイプが揃わない言語もありそう（ただし、どれぐらい狭義文法的現象なのか、文体的選好に近いものであるのか微妙なことも多い）。

堀江・パルデシ 2009、楊凱榮 2010 他

対訳コーパスの調査結果等を見ると、英語・中国語に比べ、日本語は連体修飾節を頻用する傾向が顕著。特に、日本語・中国語対訳コーパスにおいては、「中国語：連体、日本語：非連体」という用例がほぼ 0（ただし、制限的連体修飾節においても同様）。

2-2 中国語の非制限的名詞修飾節

孫 2007

I A ア 「対比・逆接」

(07)a. 学校を卒業するのが普通の人間として当然のことのように考えていた私は、それを予期以上に喜んでくれる父の前に恐縮した。

- b. ?原先以为能够在学校里毕业，这是一般人理所当然的事的我看到父亲对我毕业高兴得超过了我预料。这使我在父亲面前感到惭愧。

I A イ「継起」

(08)a. これを見た先生は、「……」ということに気づいた。

- b. ?见此情景的高木老师意识到“…”。

I A ウ「原因・理由」

(09)a. 俄に空腹を思い出した私は、米飯の代りに海草で作ったらしい緑いろの麺類を詰めた弁当を買って食べた。

- b. ?想到还空着肚子的我，便买下面食盒饭吃了。

I A エ「付帯状況」

(7)a. 血の気が引く思いで出場者表を見上げていた勇の肩を、金村が強く叩いた。

- b. 金村用力拍了战战兢兢地仰着出场者名单的勇的肩膀。

I B 「主名詞に対する情報付加」

(8)a. 宮内庁は7月18日、9月に出産予定である秋篠宮紀子さまが、胎盤の一部が子宮口にかかる「部分前置胎盤」と診断されたと発表した。

- b. 日本王室7月18日表示，今年9月即将分娩的王妃秋篠宫纪子在产前检查中发现问题，最后可能不得不采取剖腹产。

II 「情報付加ならざるもの」

(9)a. そして、両親は言葉が話せる人間になったボクを心から祝福してくれた。

- b. ?父母心花怒放，为成为一个具有语言能力的人的我从心底里表示深深的祝福。）

孙 2007 の（現象記述についての）大まかなまとめ

α 中国語では非制限的名詞修飾として現れにくい

I A ア「対比・逆接」 I A イ「継起」 I A ウ「原因・理由」

II 「情報付加ならざるもの」

β 中国語でも非制限的名詞修飾としてある程度現れる

I A エ「付帯状況」 I B 「主名詞に対する情報付加」

橋本・渡辺 2010

孙 2007 の α のなかでも、現れにくさには差があり、最も現れにくいのは I A イ「継起」（増田 2001 も参照）。対比・逆接などはある程度現れる（(10)）。

(10) a. 係長になると、彼はよけいガンバリに輪をかけ、有給休暇など一度も取ったことがなかった。（中略）課長になっても A 君は相変わらず休暇返上で働いていたが、そのうち、快活で威勢のよかった彼があまりしゃべらなくなってきた。

（岡本常男『心の危機管理術』）

- b. 自任系长后，他工作更加努力，有偿休假也一次没有用过。（中略）自然，他晋升为科长也是同期中最早的一个，就任科长后依然放弃休假拼命工作。不久，那开朗而富有朝气的他突然变得寡言少语了。（岡本常男『顺应自然的生存哲学』）

3 上代・中古語資料における非制限的連体修飾節の現れ

3-1 概観

現況、益岡 1995 の分類中、
用例が見いだせていないタイプ

IAイ「継起」

用例が見いだせているタイプ

IAア「対比・逆接」

IAウ「原因・理由」

IAエ「付帯状況」

IB「主名詞に対する情報付加」

(II「情報付加ならざるもの」)

用例が見いだせているタイプの用例

IAア「対比・逆接」

(11) 道のへの 茨の末に 延ほ豆の からまる君を はかれか行かむ

(万葉集 4352)

[道端の茨の先に豆の蔓のようにまとわる君を、どうして突き放していくことがあろうか]

(12) いみじく思ふべかんめる仲忠が面伏せなることをば、いかでか啓したるぞ。

(枕草子)

[たいへんひいきに思っている仲忠の面目をつぶすようなことを、どうして申したのか]

IAウ「原因・理由」

(13) 筑波嶺の 嶺ろに霞居 過ぎかてに 息づく君を 率寝て遣らさね

(万葉集 3388)

[筑波嶺の嶺に霞がかかって去りがたいように、通り過ぎかねて嘆くあの人を、家の中に入れてあげて寝て帰してあげなさい]

IAエ「付帯状況」

(14) …さ夜ふけて あらしの吹けば 立ち待てる 我が衣手に 降る雪は 凍りわたりぬ…

(万葉集 3280 (長歌))

[…夜が更けて立って待っている、私の裾に降る雪は一面に凍ってしまった…]

(15) …「…」とうち言ふほどに、この寝たる犬ふるひわななきて、涙をただ落としに落とす。

(枕草子)

[この寝ている犬はふるえわななきて、涙をただ落としに落とした。]

I B 「主名詞に対する情報付加」

- (16) また、堀河殿の御子、…… まことや、北面の中納言とかや世の人の申しし時光の卿、それまた、右京大夫にておはせし。

(大鏡)

[また、堀河殿（藤原兼通公）のご子孫と言えば、……、そうそう、世の人が北面の中納言とか申ししていた時光卿や、また、右京大夫だった方（などがいらっしやった）。]

- (17) 消えはつる 時しなければ 越路なる しらやまの名は 雪にぞありける
(古今和歌集 414)

[（山頂の）雪が消えてなくなる時がないので、越の国にある白山の名は、雪のことであったと気づいた]

II 「情報付加ならざるもの」

- (18) 春の日の光に当たる 我なれど かしらの雪と なるぞわびしき
(古今和歌集 8)

[春の日の光に当たっている（東宮様の栄誉に浴している）私ですが、頭が雪のように白くなってしまったのが情けないことです]

- * 韻文における修辞の問題については配慮が必要になるかもしれない。
- * 韻文以外でも、元来文体の問題を無視しにくいテーマでもある。

3-2 「継起」の出現しにくさの解釈

3-2-1

上代・中古日本語と現代中国語の状況がひどく似ているわけではないが、「継起」タイプが非常に出現しにくいという点は共通。

「継起」の典型：完成的（非状态的）な出来事の連続生起。

- ・連体修飾でない形（連用節、並立節、単文連続等）でも表現しやすい。
(他のタイプの非制限的連体修飾節にも非連体表現でも表現しやすいものもあるが、「継起」タイプは特にその傾向が強く、典型的な並列節、無標の副詞的節が、継起的な出来事連鎖をあらわしうることが多い)
・背景化になじみにくい。(孫 2007 も参照。ただし孫 2007 は逆接等も背景化しにくいと見る)

- (19)a. 上着を脱いだ横井は、カバンから携帯電話を取り出し、山本課長に電話をかけた。
b. 横井は上着を脱ぎ、カバンから携帯電話を取り出し、山本課長に電話をかけた。
c. 横井は上着を脱いで、カバンから携帯電話を取り出し、山本課長に電話をかけた。
d. 横井は上着を脱ぐと、カバンから携帯電話を取り出し、山本課長に電話をかけた。

継起（出来事の連続生起）を非制限的連体修飾節で表現することは、一般的に（より）有標なありかたなのではないか。

3-2-2

ではなぜ現代日本語には有標な「継起」タイプの非制限的連体修飾節が存在するのか。

←語り文体における、連用節連続を緩和するものとしてあるのではないか。

*「対比・逆接」タイプの非制限的連体修飾節などは、逆接であることを弱める・曖昧にする機能を持つとされることがあるが、「継起」であることを弱める・曖昧にする機能というのは考えにくい。

■非制限的連体修飾節は全般に書き言葉的ではあるが、「継起」タイプは特に、語り文体的（会話体ではかなり不自然。）

(20) 私は家に着いてすぐに電話したんだけど。

(21) ?家に着いた私はすぐに電話したんだけど。

cf. (22) 家で寝ていたあなたに、バイト代が出るんですか。（「対比・逆接タイプ」。会話体でもまずまず自然）

■中古和文資料においては、現代語の感覚からすると許容しがたいほど多数の、非連体的節の連鎖が許容されている。この状況は現代中国語も共通。

(23) この川にのみやは魚はあると思ひて、下りて、その川より渡りて、北さまにさして行きて、山には入りて見れば、大いなる童、土を掘りて、物を取り出でて、火を焚きて焼き集めて、また大いなる木の下に行きて、椎・栗などを取りて、この子を、「…（中略）…」と問へば、「…（中略）…」と言へば、「…（中略）…」と教へて、この掘り拾ひ集めたる物どもをとらせて、童は失せぬ。

（うつほ物語）

[（この子どもは）この川だけに魚がいるわけではない（他の場所にもいる）だろうと思って、川におりて、その川を渡って、北の方を目指して行き、山に入ってみると、大きな童（天童）が土を掘って物を掘り出し、火を焚いて焼き集めて、また大きな木下に行つて椎や栗などを拾つて、（歩いてきた）この子に、「…」と問うたので、「…」と言うと、童は「…」と教えて、この掘つたり拾つたりして集めた物をこの子に与えて、童は消えた。]

(24) 因为政治部太嘈杂，莫愈同志决定要把我送到邻村去暂住，实际我的身体已经复原了，不过既然有安静的地方暂时休养，趁这机会整理一下近三月来的笔记，觉得也很好，我便答应他到霞村去住两个星期，离政治部有三十里路。

（丁玲『我在霞村的时候』）

[政治部があまりに騒がしいので、莫愈さんは私を隣の村にしばらく住ませることにし、実際私の体はもう回復していたのであるが、しかし静かな場所でしばらく休養するからには、この機会を利用してここ三カ月あまりの書き物を整理するのもよいと思って、私は彼に応じて霞村に2週間行くことにし、そこは政治部から30里の道のりであった。]

*ただし、多数の非連体的節の連鎖を回避する方法は、継起タイプの非制限的連体修飾節の使用以外にも、複文を文連続にする等あり得る。言い方として連鎖の回避、というだけでなく、大島2010のような、「構造にメリハリがつく」というような言い方の方がよりよいかもかもしれない。

4 まとめと今後の課題

・非制限的連体修飾節のなかでも、「継起」タイプは、「連用節・並立節等の alternative でも表現しやすい」「背景化になじみにくい」という点で有標（特殊）である。

・このタイプは、全般的に連体修飾節への選好が強い言語でないと存在しにくい。

現代日本語 現代韓国語

・日本語において、いつ頃から「継起」タイプの非制限的連体修飾節が出現するのか。

(24) 盾のかげより塗籠に黒ぼろはいだる大の矢をもって、まっさきにすすんだるみ
のやの十郎が馬の左のむながいづくしをひやうづばと射て、筈のかくるるほどぞ射
こうだる。
(平家物語)

上記(24)のような平家物語（覚一本他）の例が、初期の例として挙げられるのではない
か。ただし、主節に対してガ格でない名詞句にかかっていくタイプで、そのままの位置 で
連用節等の alternative を考えにくいという点は興味深い。

／参考文献／

- 大島資生 2010 「接続節と近い意味合いをもつ連体修飾節」 ひつじ書房 20 周年記念シンポ
ジウムハンドアウト
- 大関浩美 2008 『第一・第二言語における日本語名詞修飾節の習得過程』
- 奥津敬一郎 2007 『連体即連用？ ―日本語の基本構造と諸相―』 ひつじ書房
- 尾上圭介 2001 『文法と意味 1』 くろしお出版
- 神尾昭雄 1983 「名詞句の構造」 『講座現代の言語 第 1 巻 日本語の基本構造』 三省堂
- 金水敏 1986 「連体修飾成分の機能」 『松村明教授古稀記念国語研究論集』 明治書院
- 小松英雄 1997 『仮名文の構文原理』 笠間書院
- 近藤泰弘 2000 『日本語記述文法の理論』 ひつじ書房
- ソムキャット・チャウエンギジワニッシュ 2000 「「非限定」の連体修飾節に関する一考
察―「眼前描写」の連体修飾節について」 『日本語科学』 7
- 孙海英 2007 汉日动词定语从句对比研究 北京外国语大学博士学位论文
- 坪本篤朗 1999 「モノとコトから見た文法 ―主要部内在型関係節とト書き連鎖」 『日本
語学』 18-1
- 橋本修・渡辺昭太 2010 「連体修飾・連用修飾の日中対照」 ひつじ書房 20 周年記念シンポ
ジウムハンドアウト
- 堀江薫・プラシャント・パルデシ 2009 『言語のタイポロジー』 研究社
- 益岡隆志 1995 「連体節の表現と主名詞の主題性」 『日本語の主題と取り立て』 くろしお出
版
- 増田真理子 2001 「〈談話展開型連体節〉 ―「怒った親は子どもをしかった」という言い
方―」 『日本語教育』 109

三宅知宏 1995 「日本語の複合名詞句の構造 — 制限的／非制限的連体修飾節をめぐって —」 『現代日本語研究』 2

楊凱榮 2010 「日中連体修飾節の対照研究」 第2回漢日対照シンポジウム

刘丹青 2010 汉语是一种动词型语言 《世界汉语教学》 第1期北京语言大学出版社